

〈午後0時05分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、豪雨時、車を一時避難場所として使用する案について。

このところ毎年、全国各所で豪雨災害が頻発しております。特に大きな災害を引き起こす線状降水帯は、現在の気象予報で正確に予測することはできないと言われております。しかし、大方の降雨予想はできています。豪雨予報が出された場合は、ハザードマップで示された土砂災害警戒地域や浸水想定区域では、早めの避難が必要と思います。現実には、なかなか避難をしないのが現状のようです。そのしない理由に、避難所でのプライバシーが保たれないとの意見をよく聞きます。市が開設する避難所も、コロナ禍により多くの問題点があります。避難は、自助・共助・公助が基本と考えています。自分自身の命は自分で守ることは絶対に必要なことです。

そこで、1つの避難方法を提案したいと思います。

長野県では、車での避難場所を地図で公表したという記事が報道されています。この避難方法なら、他人に気を遣うことなく避難できると、多くの市民からの声を聞きました。この避難方法は、エコノミークラス症候群や交通渋滞など、多くの問題点はあると思われませんが、検討する価値は十分にあると思います。

市として、どのように考えるか伺います。

2、こどもフリーパスの利用状況と高校生への拡大について。

現在、こどもフリーパスが事業化されています。そこで、その利用状況と、高校生へ拡大するとした場合の問題点について伺います。

(1) 市内で運行されている路線バスの状況について、以下伺います。

- ① 市内の路線バス1台当たりの乗車人数はどの程度か。
- ② 市として、糸魚川バス株式会社への運行費補助金額はどうか。

(2) 現在のこどもフリーパスの利用状況はどうか、以下伺います。

- ① 利用人数はどうか。
- ② 利用者はどこの地域が多いのか。

(3) この制度を高校生に拡大してもらいたいと考えています。高校生に拡大するとした場合、

問題点は何か伺います。

### 3、コロナ禍及び猛暑における児童生徒の状況について。

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年にない大変な夏でした。当市の小中学校では、例年どおりの夏休みが取れました。そこで、夏休み期間及び2学期開始後の児童生徒の生活状況について伺います。

(1) 夏休み期間中、例年ですと家族で旅行に出かけたり、お盆には親戚等が帰省するなどがあります。しかし、コロナ禍と猛暑で例年とは大きく違った夏休みであったと思われます。そこで、児童生徒の生活態度等に大きな変化があったか伺います。

(2) 昨年、市内小中学校の普通教室にエアコンが設置されました。そこで、エアコン使用基準、現状の運用状況と設置による効果を伺います。

### 4、夏休み期間中の市公共施設の運営について。

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年にない大変な夏でした。特に毎年当たり前になってきた猛暑で、生活様式も大きく変わるものと思われます。そこで、市が運営する公共施設等の夏休み期間中の運営について伺います。

(1) 今年4月にオープンした健康づくりセンタープールについて、以下伺います。

- ① オープン後の月別利用者数はどうか。
- ② 利用者の年代などはどうか。
- ③ 子供の夏休み期間中だけでも、休日なしでの運営は可能か。

(2) 市内の図書館や公民館などについても、プール同様に夏休みを含めた長期休暇中は開館する必要があると考えます。今後、小中学生や高校生は、タブレットが必須となっていきます。しかし、通信環境が整っていない児童生徒の公共施設の利用について、検討が必要と思われますが、伺います。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、分散避難や避難者のプライバシーの確保の観点から、車中避難も有効な手段と考えております。車中避難が可能な一時避難場所の選定、エコノミークラス症候群や交通渋滞などの課題のほか、豪雨の中での移動によるリスクについても十分踏まえ、車中避難の取扱いについて検討を進めております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、元年度の乗降調査によりますと平日のバス1便当たりの乗車人数は、平均9人となっております。

2つ目につきましては、元年度決算額で約1億4,000万円となっておりますが、県の補助金や特別交付税で約1億2,000万円が措置されております。

2点目につきましては、元年度では延べ313人の児童生徒が利用しており、東中学校が一番多く、延べ154人の利用となっております。

3 点目につきましては、市の財政負担額の増加が課題と捉えております。

3 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

4 番目の 1 点目の 1 つ目及び 2 つ目につきましては、4 月が 6 7 3 人、5 月が 3 7 8 人、6 月が 2, 7 5 5 人、7 月は 2, 8 8 0 人、8 月が 3, 7 9 2 人となっており、小学生以下が約 4 8 % を占めております。

3 つ目につきましては、スタッフの確保や設備のメンテナンスなどの課題もあり、来年度に向けて指定管理者と協議してまいります。

2 つ目につきましては、今後の利用状況や要望を踏まえ、検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の 3 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、夏季休業中、大きな事故や非行等の報告はなく、2 学期が順調にスタートしております。

2 点目につきましては、エアコンの使用基準は 2 8 度以上としておりますが、湿度等も加味しながら各校で適切に運用しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3 番（山本 剛君）

2 回目の質問をさせていただきます。

長野県での、ちょっと記事を読みたいです。

新型コロナウイルス感染拡大化の大規模災害発生に備え、県は 8 日、車で一時的に避難できる場所を示した地図をインターネット上で公開した。県は、これまで車で避難を促していなかったが、避難所での集団感染を恐れて、避難場所に行くのをためらう人に役立ててもらおうということというふうここに記事が載ってます。駐車場所には自動販売機や公衆トイレの有無などなんかをというふう載ってます。

また、小田原市では、風水害時に車で避難する住民のために、小田原市は、商業施設の駐車場を一時避難施設とする避難者は車中滞在が原則で、通常の避難所の過密化も緩和できることから、新型コロナウイルスの感染防止を図ると。やはり全国でも車で避難を結構してきているように思います。

私は、現在の避難方法は、都市型を中心に強要してるような制度に思えてなりません。以前の一般質問でも取り上げましたが、駅北大火時、市で開設した避難所は、2 日以降いなくなりました。

都会であれば近くに親戚や知人も少なく、仮にいたとしても住宅環境は狭く、避難者を受け入れられないため、公が避難所を開設しなければならないからだと考えています。

糸魚川市では、親戚や知人に頼んで、避難が可能な地域だというふうに考えています。私の考える避難所は、災害が発生した場合、まず自助、自らの責任で避難すべきであると思っています。そして、余裕があれば共助です。我が家が安全なら親戚や知人を我が家に来てくださいというふうにすることが、2番目で共助だと思っています。そして、やっと公助として、市の開設する避難所などを利用するのが基本だというふうに考えております。

今回の質問で主題である豪雨時、市からの避難情報を基に自ら判断して行動すべきと考えます。市内には、親戚、知人宅などに避難できない人もいます。その方は、市の避難所を利用することは必要とは思っております。家が土砂災害や水没などで住めない状況で、やっと避難所にお世話になるべきだというふうに私は思っております。

次に、私は、このところ頻発する豪雨災害と地震などの避難方法を分けて考える時期に来てるといふふうに思っております。豪雨災害では、高台にある住宅は避難する必要はありません。例えば高畑地区の避難場所は、青海中学校に指定されています。豪雨時、田海川が氾濫する危険性があるのに、橋を渡って避難する必要があるのでしょうか。これは避難ではなく、危険場所への誘導としか思えません。その地域によって高台に避難所がない地域もあります。浸水被害に対する避難場所も、今までと違った場所に考える、変える必要があると思います。今回のコロナ禍で世の中が大きく変化すると言われていています。この避難方法も3密を避けるため、大きく変えなければならないと考えています。

また、市の職員も減少する中、避難所の開設にも大きな負担があります。このことを踏まえれば、様々な災害を一緒くたにした避難所から、この豪雨による土砂災害、浸水被害をいま一度考え直す時期に来ているといふふうに思います。どうか検討をお願いいたします。

今日、朝、出がけに台風10号の報道がありました。やはり気象庁なんかも、もう1日前から避難してくださいという報道もあります。まさに避難方法が変わりつつあるんだな。市もそのことを考えていふふうに思っています。もし、意見がありましたら、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

今ほど議員さんがおっしゃったように、やはり車中避難というのは、今後やはり1つの避難の形態として確立されていくんだらうなといふふうに思っております。

ただ、その際にやはり避難のタイミングだとか、あるいは何でもかんでも車で逃げればいんだと、こういうことになってはおかしなことになりますので、その辺のところをしっかりと、こういう場合は車じゃ駄目だよとか、そういったところをしっかりと、決めて、また周知をさせてまいりたいといふふうに思っております。

それからもう一点、災害によって、やはり避難の動きが違ふとか、あるいは避難情報が出るのが違ふ。これはやはり気象庁も早め早めに情報を出すようなことを取り組んでいただいておりますの

で、やはりその辺も含めて情報の出し方、それから住民の方の避難の仕方、こういったところをしっかりと真意を理解していただいて避難してもらおう。自分の命は自分で守る。そこをしっかりと周知していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

車での避難の利点もあると思います。例えば車であれば食料品だとか毛布だとか、自分で全部車に積んどくことができますよね。徒歩で逃げるんならリュックにこうして物は限定されますけど、車ならある面ではそういうことが可能です。

ただし、逆に言うと本当に水害が発生しるところに車で走って行って、水没にする危険性もある。そこら辺りをどうするかが大きな課題だというふうに思ってます。ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。

次に、子供のフリーパスについて伺います。

事務報告書に平均乗車密度というふうなものが載ってます。それには仙納から、能生中学から4.5人、笹倉温泉経由の焼山から糸魚川総合病院はゼロ人と、これの意味についてちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今ほどの平均乗車密度というのは、これは路線バス特有の指標でございまして、始発から終点までの間、平均でどれだけ乗車しているかというものを計るために、途中で乗ったり降りたりでなくて、始発から終点まで1人乗り続ければ1人ということで示す数字でございます。これはお金のほうにもいろいろ絡んでくる特有な数字でございます。

今ほど市長の答弁のほうは、議員のご質問の趣旨に沿いますように乗降調査の結果を基に、1便当たりの平均乗車人数というもので答弁をさせていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川バスに1億4,000万、県でも3,000万ほど補助があるというふうに思ってるんですけど、合わせて1億7,000万ぐらいの補助金だと思います。確かに生活を守るための路線バスですので必要なんですけど、この金額を考えたときに正直な話、かなりの金額です。その点どのようにお考えなのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

確かにあの金額だけ見ますと、糸魚川バスに対して年間1億4,000万という非常に多大な支援をしとるといような状況でございますが、これは一面では、これからやはり車を運転できなくなるお年寄りのためにですとか、学校に通わなきゃいけない高校生のためにそういう公共交通というものを何とか維持・確保していかなければならないという糸魚川市の施策に基づきまして、これは行っておるものでございます。

ただ、このままどんどん青天井に補助金が増えていいというものでもございませんので、私どもは公共交通網の形成計画ですとか、実際の運行系統を見直す再編実施計画というのに取り組みまして、平成30年度から令和元年度にかけては、本当僅かではありますが、緩やかな費用の減少というものも見られとるような状況でございますので、これらの取組というのを経済性だけでなく、利便性と両立させたような取組というのを今後も継続してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

確かに経済的な面だけでは計れないものがあるんだというふうに思ってます。ただ、やはり私は、この路線バスをもっとやはり有効的に使うべきだなというふうに考えております。

では、糸魚川バスの乗車券の種類、例えば高校生なんかは学割だとかってあるかと思うんですけど、高齢者・障害者おでかけパス、こどもフリーパスというのは、これはフリーのですね。そういう形で糸魚川バスの、いわゆる乗車券の種類辺りが、もし体系で結構です、あったら教えていただきたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

分かる範囲でお答えいたします。

普通の、まずお話にあったような通常の料金の形態、ほかには大人用の定期券、あと通学に特化したような通学の定期券、あと、それ以外にも夏休みとか無駄にならないような学期別の定期券、あとバスカードですとか、それに今度、私どもは直接は所管しておらんのですが、高齢者・障害者のおでかけパスですとか、こどものフリーパスというような様々な制度がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いま一度聞きますけど、フリーパスという制度は、今の糸魚川バスの中にあるんでしょうか。逆に言うと、例えば半年間もうフリーパスでというような。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、子供、小学生、中学生は、6か月間のフリーパスという制度がございます。これに対しては糸魚川バスの商品ではありますが、市のほうは、そこに対して一定金額の負担をしております。同様に福祉事務所のほうでも所管しております高齢者・障害者おでかけパス、これは6か月だけではなくて、1か月というような販売方法もございまして、これも糸魚川バスのそういうパスに対して一定金額の市のほうの負担をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

一般向けのフリーパスというのはないんですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

失礼いたしました。中学生までのお子さん、あと高齢者・障害者ということで、一般向けのものはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ここに資料あるんですけど、こどもフリーパス6か月が、小学生が1,500円、中学生が3,000円、1か月で小学生510円、中学生1,030円と。実際のところは、小学校6か月が2,570円のところ、市から補助が1,070円と。中学生は6か月の5,140円のところ、市が2,140円と。この制度のためにこれ、逆に言うと作っていただいたフリーパスというふうに理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

車の運転できないお子様ですとか高齢者、あと体に障害をお持ちの方のお出かけ支援として、糸魚川市のほうで、糸魚川市と一緒に設定した制度でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

こどもフリーパスについて、付け加えさせていただきます。

こどもフリーパスについては、遠距離通学補助対象外の児童生徒に対しまして、近隣の児童生徒数、あるいは通学路の状況等によって、通学路線バス利用を希望する者に対して負担の軽減を図ることや、併せて、先ほどお話ありましたが、公共交通機関の利用促進というふうなことで、そういった目的を基に始まったものです。23年度から導入いたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

こどもフリーパスについてちょっとお伺いしますけど、これあれですか、地域的にはどんな、先ほど言ったように東中学というんですけど、逆に言うと事務報告書には延べかなんかで載ってるんですけど、その実際の人数辺りはどうなのか、そこら辺もう一度教えていただければと。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

先ほど議員のほうからもお話がありましたけれども、こどもフリーパスは6か月というふうな形で購入いたしております。つまり、1人のお子さんが1か年利用するとなりますと、2回利用するということになりますので、延べ数で言うと2人とカウントさせていただいております。実人数のほうなんですけれども、令和元年の利用者を申し上げますと、全体では188名、一番多い糸魚川東中学校区で88名となっております。

なお、参考までに糸魚川中学校区57名、それから能生中学校区では19名というふうな形になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、全線共通のフリーパスを高校生に拡大していただきたいというふうに考えてます。私たちの年代は、中学を卒業すると高校に進学せずに働きに出る人が約半数までいました。いたかいかんかですけどいました。その上片や同年代で、片や税金を納める。それを使って逆に高校へ通う方は補助してもらおうというのは不平等があったんだと思います。

しかし、現在、実際には99%が高校に進学しております。むしろ高校は、準義務教育化しているというふうに思っております。国も私立の高校に補助を出すのも、この考え方からだろうというふうに思っています。このことを考えると高校生にも拡大してはいいのではないかと。

糸魚川市の事業の中に大学などに通うのに、糸魚川市から新幹線を利用しての事業があります。交通費の補助ですね。この事業の目的は理解してるし、理解できるんですけど、今の義務教育化した高校への交通費と平等性を考えたとき、さてどちらが優先されるかと思うと、私は高校への交通費に支援するほうが平等ではないかというふうに考えております。その点を考えていただければと思います。

私は、高校生のフリーパスをしたときに、利点は以下のことを考えております。

まず、個々のお母さん方や家族が学校まで送り迎えをしなくてよくなります。家族が最も忙しい時間に送ることは大変なことで、時間が持てるようになるかと思えます。

2番目に、マイカーを使用することを減らすことで、個別の車の運転がなくなり、僅かではありますが、地球温暖化を防止できるのかなというふうにも考えています。

3番目に、高校生のコミュニケーション能力の向上や出会いの場になるんじゃないかと思えます。デジタル化の現代、ますますコミュニケーションが取れない、取りにくい時代です。私もデンカで、会社で勤めたときに、私見が入りますけど、やはり大人とのコミュニケーションとかが実に下手というふうに感じております。それぞれの学校以外の人たちとの出会いばかりでなく、一般の方、他校との、会うことによるコミュニケーション能力が向上につながり、また、男女の出会いもそこでできて、将来、糸魚川で結婚ということも考えていただけるんじゃないかというふうにも思ってます。

次に、駅北のにぎわい広場へ、高校生の交流の場でも、実際の今キターレは、糸魚川小学校範囲内の方しか利用されないような気がしてなりません。大人は車で行くことができますが、高校生は費用がかかるため、旧糸魚川市外からは不平の声もあります。

5番目、休日に高校生が市内の名所や旧跡などへ出かけ、市の歴史や市のいいところを見る機会も増え、糸魚川愛にもつながるんじゃないかというふうにも考えてます。

6番目、現在、糸魚川市外の高校に通う高校生が増加、高校生の親に聞くと、この制度があれば糸魚川の高校に通わせたいという親も現実にあります。この制度を高校生まで拡大することで一石二鳥ならず、何鳥もの効果があるように考えます。ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。

市長、もし答弁があったら、感想でもお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど山本議員からいろいろなメリットということでお聞きいたしました。実際、私も現場で確認しますと保護者の送迎が多いという実態もあると思います。そういった部分を公共交通に振り替えて、公共交通の利用促進を図るといふ部分も理解できるところです。

また、高校の魅力化を進めてる中で、高校生の支援という観点でもお話を頂きました。そういったことを含めて、財政負担が課題というふうに申し上げましたが、検討はさせていただきたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

次に、3番目の猛暑の子供たちということで、先ほど答弁いただきました。本当に日頃の教育関係、感謝を申し上げたいと思います。

最近の報道では、猛暑による熱中症対策として、以前は室温を28度にしなければという一点張りのような気がしましたが、最近の報道では26度でもというような言葉が出るぐらいの報道に変わりつつあるというふうには思っています。最近の報道でも猛暑による、ないと思います。

実は、ある小学校の校長先生とのお話の中で、通学時、いわゆる通ってくる時、汗をかき、学校に来る。そのときは子供たちがいらいらして、ちょっとしたことでもいさかひがあったところ、ところがエアコンを入れることによって、さっと汗が引き、いわゆる授業への集中力もすぐというふうな話を聞きました。

まだまだ残暑が続く中、一定の基準は必要と思いますが、先ほどの答弁のように子供たちの状況を判断して、有効に活用していただきたいというふうには考えます。現在、各教室には完備されましたが、まだまだ音楽室など、そちらの教室もないところもあります。子供たちは、この糸魚川市にとって宝です。ぜひともそちらのほうの設置も早めに検討をお願いしたいというふうには思います。

最後に、休み期間中の公共施設の運営について、伺います。

先ほど4月からの利用人数、8月は3,792人ということでした。実際、私もはびねすへ運動しにいけますので、本当に人気があるんだなというふうには感じております。そのときに、例えば夏休み期間中にほかの、例えば水族館なんかは、やはりその期間休まずに営業してると思うんですよ。そう考えたときに、やはりこのプールも夏休み期間中は休まずに営業ということを民間なら考えることだと思いますけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

確かにご提案のように、夏休みの暑い時期だけでもフィットネス、それからプールを子供たちに

開放して、利用していただくというのは、出来得ればそうしたいというふうに考えておりますけども、先ほど市長から答弁いただきましたように、その休みの期間を使いまして、例えばメンテナンスでありますとか、お風呂の水の交換だとか、そういうものに時間を使っておりまして、そこら辺が何とかできて、その上でスタッフが確保できるようであれば可能なんだというふうに考えております。したがって、新年度に向けて指定管理者とも協議をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

同じように、もしこのプールが民間だったらいろいろ考えると思いますので、ぜひともそうしていただきたいというふうに思います。ほかの公共施設で図書館だとかほかのあれですけど、それもやはり同じようなことで、今、小学生、中学生がタブレットというふうなことがあります。家庭によっては通信環境がないということも問題視されてます。そうなったときに、やはり図書館なんかは有効な場所ですので、これもやはり夏休みに限らず、春休み、冬休みなんかも開設ということを検討していただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

公民館、図書館等、今年の夏休み等も子供たちが積極的に利用している様子がうかがわれました。公民館においては、寺子屋といったような形で、地域住民が一生懸命子供たちに勉強を教える姿、そういったものが大変ありがたく目に映っておりました。こうした公民館や図書館の利用につきましても、利用状況並びに要望等に応じまして、開館等、関係する課と相談しながら、協議しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

また、インターネット環境については、公民館、図書館だけでなく、学校等の利用の、インターネット環境の利用についても検討いたしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

プールの件にちょっと戻りますけど、例えば冬休みというか、冬の平日はそれほど利用客がないと思うんですね。そこら辺りは、例えば週に2日間休んでもいいんじゃないか。先ほどの答弁の中にメンテナンスということもありますんで、夏休み中全てということではなくても、いわゆる検討する大きな材料だというふうに思いますので、ぜひとも検討して、来年には開園というか、できるようにお願いしたいと思います。

これをもって質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

1時45分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時40分 休憩〉

〈午後1時45分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、動物愛護の取組について。

(1) 多頭飼育による生活崩壊の防止策について。

- ① 多頭飼育に陥りやすい傾向や行動について、周知を行っているか。
- ② 生活崩壊の予兆や不安がある場合、市の相談窓口はあるか。
- ③ 生活崩壊があった場合、動物を預かる施設は確保されているか。
- ④ 生活崩壊後の飼い主への指導や支援は、どのように行うか。

(2) 動物用マイクロチップ装着の促進について。

ペットの迷子や脱走があったときや、災害時にペットが行方不明になったときの対策として、マイクロチップがある。そこで、マイクロチップ装着費補助事業の創設と、この事業利用者から飼い猫等の基礎情報を提供してもらう考えはあるか。

(3) 災害時の同行避難の受入れについて。

- ① 避難所収容時に駆虫薬の十分な備蓄はあるか。
- ② 動物用マイクロチップリーダーは、用意してあるか。
- ③ 同行避難に関する情報を安心メールで配信する考えはあるか。

2、市施設の点検と改修について。

(1) 美山公園にある貯水池の排水施設について。

経年劣化により排水溝本体の裏側に水の浸入が見られる。大雨や豪雨のときに排水溝自体